

# 平成28年度第2回広島市立図書館協議会 会議要旨

日時	平成29年3月24日（金） 午後1時30分～午後3時30分		
場所	中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	なし
出席者	委員：宮原委員、大上委員、志々田委員、池田委員、杉野委員、竹澤委員、林委員 事務局：笹口生涯学習課長、夏明中央図書館長、藤井中央図書館副館長、野口中央図書館事業課長、福島こども図書館長、綿谷中区図書館長、中東区図書館長、的場南区図書館長、漆谷西区図書館長、池本安佐南区図書館長、山村安佐北区図書館長、小川安芸区図書館長、重藤佐伯区図書館長、上田湯来河野閲覧室長、烏田まんが図書館長、植田あさ閲覧室長、岡崎指導第一課課長補佐		

## 議 事（会議要旨）

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 委員長及び副委員長の選任について

委員改選後初めての協議会開催であり、委員長及び副委員長を選任する必要がある。広島市立図書館協議会規則第2条に、委員長、副委員長は委員の互選になっており、任期は1年で、再任は妨げないと規定されている。事務局案として、改選前に本協議会の委員長又は副委員長を務めていただいていた林委員、竹澤委員に引き続きお願いすることを提案したところ、全委員がこれに同意し、委員長として林委員を、副委員長として竹澤委員を選任した。

#### (2) 平成29年度図書館関係事業について

##### ア 図書館主要事業について

資料に沿って中央図書館副館長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

##### (池田委員)

広島特別支援学校との連携で、ブックカバー、しおり等の販売コーナーを図書館内に定期的に設置することについて、感性豊かな子どもの創造性に視点を置いた取組であり評価する。中央図書館だけでなく様々な場所で展開すれば、子ども達の活動がより一層広がっていくのではないかと期待している。

まんが図書館開館20周年記念事業を実施することについて、これを機会として様々な意味で広がりが生まれ、次の取組につながっていくことを期待している。

##### (中央図書館長)

図書館事業について良い評価をいただきお礼申し上げます。

ブックカバー、しおりの作成・販売については、学校側にとって無理のないところでスタートさせ、徐々に設置箇所などを拡充してまいりたい。なお、別件だが、環境局と協力し、各図書館で広島市環境ポスターの巡回展示を行うなど、広がりを持たせる事業展開に取り組んでいる。

##### (まんが図書館長)

広報紙「市民と市政」でも開館20周年に関する特集ページを掲載する予定である。まんが図書館について広く知っていただく機会としたい。

(杉野委員)

配布された「発達段階別図書リスト」について、子育て中の知人に聞くと、手にしてもパラパラと見るだけで、すぐにゴミステーション行きとなっているようである。読書習慣のない家庭では、せっかく配布しても十分に活用できない。この予算を有効に使うことができないか。また、小学生のうちから習慣付けが大事であると考えるが、学校図書館ボランティアでは活動に限界があるため、学校司書を配置してほしい。

(指導第一課課長補佐)

学校司書の重要性は認識している。後ほど議事「学校図書館の活性化」で詳しく説明するが、来年度から司書を配置し、学校図書館の環境整備等を進めていくこととしている。また、「発達段階別図書リスト」は非常によくできている冊子であり、学校での活用に努めてまいりたい。

(中央図書館長)

図書館としても、子どもの読書活動の推進を最重点事業として位置付けている。来年度から、支援図書セットの貸出をボランティアにも対象を広げるほか、ボランティアの育成にも力を注ぐこととしている。教育委員会、生涯学習課とも連携し、子どもが本に触れる機会の充実を図ってまいりたい。

(池田委員)

「発達段階別図書リスト」は、大学での学生指導に活用させてもらっている。子どもが本を好きになるかどうかは、乳幼児期からの家庭での取組が基本である。家庭でも地域での子育て支援でも、より有効に活用されるように工夫していただきたい。

(林委員長)

中・高校生向け通信の発行では、ICTを活用するのか。

(中央図書館事業課長)

まずは紙で発行し、その後ICTの活用などにより広がりを持たせてまいりたい。

(竹澤委員)

浅野氏入城400年記念事業の歴史講座は、どのような内容で実施するのか。

(中央図書館副館長)

浅野家が統治した江戸期の広島文化、政治、食などの分野について、大学教授や研究者の方などから様々な視点で、1回2時間、計10回の講座を開催する予定である。

## イ 図書館整備について

資料に沿って生涯学習課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(池田委員)

比治山公園「平和の丘」基本計画での第Ⅱ期整備では、民間事業者を主体とした整備や市民活動団体に管理・運営を委ねるとある。人口減、税収減の中、民間を活用することで、施設をより一層有効に活用できると考える。幅広い展開を期待している。

(林委員長)

施設整備・維持補修は優先順位をつけて実施するものなのか。今後も補修が必要なものがあるのか。

(生涯学習課長)

緊急度の高いものから順次実施している。

#### ウ 学校図書館の活性化について

資料に沿って指導第一課課長補佐が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(志々田委員)

長年の懸案であった学校司書が配置されることとなった。配置内容としては、最初のステップを踏み出した程度に思われるが、教育委員会の相当のご尽力の下でこのような配置となったと理解し、まずはお礼申し上げる。臨時司書にはどのような人になるのか。

(指導第一課課長補佐)

臨時司書は、公募を考えている。現在、学校図書館ボランティアとして活動している方にも学校長から募集について案内してもらおう。

(志々田委員)

臨時司書となりうる人には2通りある。1つは司書資格を有しているが資格を活かしきれていない人、もう1つは学校図書館をよくしたいという意欲の高いボランティアである。司書の役割として、楽しい図書館づくりを進めるのか、あるいは、学校の教科活動の中で図書館を活用するのか、どちらに力点を置いているのかによって、採用の仕方が異なる。前者であれば地域で実績を積んだボランティアの方を配置し、後者であればボランティアでは難しいため専門的な実践を積んだ方を配置すべきである。個人的には、PTAや学校支援にかかわっていただいている地域の方になっていただく方が上手く進むのではないかと考える。

(林委員長)

学校図書館法でも「学校司書」と明記されているのに、なぜ「臨時司書」としたのか。司書教諭と連携することだが、必置の学校(12学級以上の学校)以外の学校にも司書教諭が発令されているのか。これまで各区の拠点校に配置されていた学校図書館担当事務職員との関係はどうなっていくのか。

(指導第一課課長補佐)

名称についてはいろいろ議論したが、1日4時間勤務の臨時職員とすることから、「臨時司書」とした。本市では、必置の学校だけでなく全校で司書教諭を発令している。現在配置している学校図書館担当事務職員8名は引き上げとなると思われる。学校図書館担当事務職員がこれまでの活動ノウハウを冊子にまとめているところであり、この冊子を全校に配付し普及していくことを考えている。

(大上委員)

臨時司書の公募に当たっては、選考基準が重要である。また、継続して子どもにかかわることが大事である。東広島市の学校図書館支援センターでは、各校の課題等を把握する仕組みがある

ので、参考にしてほしい。

(指導第一課課長補佐)

各委員からいただいたご提言を参考にして進めてまいりたい。臨時司書の募集に当たっては、司書資格を有していることや、学校図書館での活動経験などを考慮する。また、研修実施を通じて一定の専門性を高めていくこととしたい。

(池田委員)

4時間の勤務と聞いて正直驚いている。十分な活動ができないのではないかと。勤務時間帯や業務内容はどのように考えているのか。将来的に、時間を増やすなど展望があるのか。

(指導第一課課長補佐)

勤務時間帯は、朝の読み聞かせに入ってもらうことを想定しているため、原則午前4時間で考えているが、最終的には配置先の学校長が決定する。学校司書の配置は、全校フルタイムがベストだという認識を持っている。臨時司書の配置でしっかりと成果を出していきたいので、引き続きご助言・ご支援をお願いしたい。

(林委員長)

学校図書館で読書に親しんで育っていく子どもが公共図書館に足を運ぶようになっていくことが生涯学習につながる。公共図書館にも、学校図書館の支援・連携に引き続き努めていただきたい。

### (3) 施設の老朽化への対応について

資料に沿って生涯学習課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。

(林委員長)

図書館利用者の安全・安心を第一に、緊急度の高いところから順次対応を進めていただきたい。

### (4) その他（意見交換）

(宮原委員)

初めて図書館協議会に出席したが、市民、子ども達に本に関心を持ってもらいたいという思いを持った人が集まり、共通の目的に向かって協議し、取組を広げていこうとしている場であり、大変素晴らしいと感じた。本校（落合小学校）では、学校全体で図書館教育に取り組んでいるが、壁にぶつかる時もある。そのような時に、図書館協議会は、いろんな方に相談でき、力をお借りすることのできる場であると思った。

本校の図書館教育では3つの柱に取り組んでいる。1つ目は、「読む力をつける」ことで、そのために、国語科の教材に関連した本をたくさん読ませることに取り組んでおり、こども図書館の支援セットを全学年で活用している。国語科の教科書を図書館司書に見てもらって、支援セットの構成などを考えてもらえると、よりよくなると思う。また、教職員は公共図書館と連携したいと日頃思っているが、時間が取れない現状があったが、今後は臨時司書の配置により、連携が進んでいくものと期待している。2つ目は、「子ども達が吸い込まれるような学校図書館づくり」で、環境整備を進めていくに当たって、この図書館協議会の場でいろいろとヒントをもらえたように思う。3つ目は、「身近に本を感じてもらおう」ことで、こども図書館が作成している「発達段階別

図書リスト」を活用し、教室前に本棚を設けてリストに掲載されている本を置くなどの取組を行っている。全ての子ども達に読書意欲を持たせることが課題である。公共図書館には、乳幼児期から読書に親しむ機会の充実、家庭への支援に、今後も努めていただきたい。

### 3 閉会

(事務局)

志々田委員においては、4月から活動の場を県外に移されるため、本日が最後の出席となる。次回協議会は、本年9月頃に開催したいと考えており、後日、日程調整をさせていただく。